

「旅をする木」

星野道夫／著 文藝春秋 1995年8月発行
2階一般開架図書（請求記号：914.6/H）

「この本、いいですよ」と手渡してくれた人がいた。それがなかったら、この文章は生まれていない。謝々。私の本読みは、最初の1～2ページが肝心。

『人間の気持ちとは可笑しいものですね。どうしてもなく些細な日常に左右されている一方で、風の感触や初夏の気配で、こんなにも豊かになれるのですから。人の心は、深くて、そして不思議なほど浅いのだと思います。きっと、その浅さで、人は生きてゆけるのでしょう。』この文章が、スーッと心に沁み込んで、これは読み続けてゆけると確信した。『氷河の上で過ごす夜の静けさ、風の冷たさ、星の輝き・・・情報が少ないということは、ある力を秘めている。それは人間に何かを想像する機会を与えてくれるからだ。』このあたりにも共感をおぼえる。

『ぼくたちが毎日を生きている同じ瞬間、もうひとつの時間が、確実に、ゆったりと流れている。日々の暮らしの中で、心の片隅にそのことを意識できるかどうか、それは、天と地の差ほど大きい。』私も時々、同じことを考える。『英語で“it made my day”という言い方がある。つまり、そのわずかなことで気持ちが膨らみ、一日が満たされてしまう。人間の心とはそういうものかもしれない。遠い昔に会った誰かが、自分を懐しがっていてくれる。それは何と幸福だろう。』星野道夫という人と出会った多くの人たちの心に、彼への想いが、深く刻まれていることだろう。しみじみとそう思う。

「私のメモ帳 第五」

前田和男／編著 私家版 2007年8月発行
2階郷土資料書庫（請求記号：204/76）

『南路志』の武藤致和や『土佐國群書類従』の吉村春峰、『皆山集』の松野尾章行など、近世以降、土佐には大史料集を編纂した先人が何人かいるが、県内市町村史の資料編をはじめ、多くの資料集を手がけている前田和男さんを、その流れを受けた一人とするのに異論を唱える人はいないんじゃないだろうか。

前田さんが退職記念として自費出版された『私のメモ帳』から13年。このほど、その第五冊目が、やはり私家版で出版された。これまでの各冊と同様に、その内容は仏像彫刻、懸仏、絵馬、棟札などの詳細な調査記録であり、各資料の写真も全て掲載されているため、視覚的にもたいへん見応えのあるものになっている。

特に今回は須崎市、佐川町の仏像、文化財をほぼ網羅する内容になっており、質量ともに非常に充実したものになっているが、個人的には、佐川町の各社堂に納められた絵馬の写真が興味深かった。ステレオタイプな絵柄がほとんどではあるものの、中には当時の人々の思いを反映した少し変わった絵馬もある。

ページをめくっているうちに、実際に佐川町まで出かけて行って、お堂の暗がりの中でこれらの絵馬を眺めてみたいという気分になった。

※この本は「館内閲覧資料」ですので、図書館内でご覧ください